

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 名張高校定時制 )

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	「自立」「協調」「創造」を校訓とし、地域に信頼され、社会に貢献する人材を輩出できる学校。	
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶や身だしなみなど基本的な生活習慣が身についている生徒。</li> <li>○ 社会で必要とされる基礎的な学力があり、自ら考え判断し、主体的に行動できる生徒。</li> <li>○ 豊かな心を持ち、人権と生命尊重の意識、規範意識や社会的マナーを備えた生徒。</li> </ul>
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的・対話的で深い学びを意識した授業を通して、生徒の人間性を育むとともに、情報共有と意思疎通を図りながら、一人ひとりの生徒に寄り添い、粘り強く支援・指導を続けられる教職員集団。</li> <li>○ 研修や授業改善、業務の効率化などに前向きに取り組み、あらゆる場面において常に改善の意識をもつ教職員集団。</li> </ul>

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	生徒: 学校生活の充実(授業内容・学校行事・施設設備) 進路保障(情報提供) 保護者: 基礎学力の定着、進路保障・卒業、社会規範の向上 進路先: 基礎学力、一般教養、協調性、誠実さ、辛抱強さ	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	保護者: 進路保障・卒業、社会規範・基礎学力の定着 地域: 地域に貢献できる人材の育成 公的機関: 多様な生徒の積極的な受入	保護者: 基本的な生活習慣の確立、生徒への愛情と関心、相互連絡と協力 地域: 地域の活力の利用 公的機関: 情報の共有、教育的支援・連携
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定時制の教育環境は、教員による指導が行き届いており、生徒が誰一人疎外感を感じていないように思う。</li> <li>○ 家庭環境が多様で、保護者との連携が難しいが、今後は携帯メールなどのツールを積極的に使うことも考える必要があるのではないかと。</li> <li>○ コミュニケーションに課題がある生徒もいるので、きっかけ作りとして生徒の関心度が高いオンラインゲーム等を話題にしてはどうか。</li> <li>○ 集団で培うものを大切にしたい行事計画を進めてはどうか。</li> </ul>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業の理解度はおおむね良好であるが、目的意識や学習意欲、学力において大きな差があることから、個々の生徒の能力、興味・関心に応じた教育課程の編成と学習環境づくりに取り組む必要がある。</li> <li>○ 近年は落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることができていることから、今後は、生徒が主体的・発展的に考える力の育成が必要と考えられる。</li> <li>○ 人権教育に関して、中学までの学習機会や個人の意識に差があることから、ここの状況を把握し、人権学習に反映させる必要がある。</li> </ul>
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 挨拶の徹底を図り、基本的な生活習慣の確立を目指し、教職員と生徒及び生徒間の望ましい人間関係をつくり人権意識の向上を目指すにあたり、教職員の協働体制をより一層高める必要がある。</li> <li>○ 各教職員のそれぞれの取り組みや生徒情報が、的確に伝わるような情報共有の仕組みを作っていく必要がある。特に進路指導主事が、毎年変わる組織編成のため、生徒の進路希望状況等を職員全体で共通理解し、組織的に指導していく必要がある。</li> <li>○ 生徒一人ひとりが集団の中でのマナーや人権意識を身に付けるとともに、学校内で自分が安心できる居場所を確保できるよう、地域や家庭、関係機関との連携を強化する必要がある。</li> <li>○ 地域や家庭、関係機関との連携を密にし、学校から地域への情報発信を進める必要がある。</li> </ul>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 主体的・対話的で深い学びを意識した授業作りにより基礎学力の定着を目指し、継続的な授業改善に取り組み、丁寧でわかりやすい授業を工夫する。</li> <li>○ 豊かな心の育成を目指し、人権と生命尊重の意識・規範意識の向上、社会的マナーの定着を図る。</li> <li>○ 卒業後の進路をしっかりと考えるために、キャリア教育を活かした進路指導に努める。</li> </ul>
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 信頼される学校づくりを目指し、家庭や地域、関係機関等との連携をより一層深めるために、情報発信を進めていく。</li> <li>○ 大学、専門学校、自動車学校など地域機関等を利用した出前授業を活用し、社会で必要とされる幅広い知識を生徒に発信できる体制を整える。</li> <li>○ 教職員自身の人権意識や生命尊重への意識をさらに高めるため、教職員における校内外での研修機会を拡大・継続して行く。</li> <li>○ 総勤務時間縮減に関する取組が適切であることから、教職員が働きがいのある職場環境の充実をめざす。</li> </ul>

#### 4 本年度の行動計画と評価

##### (1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
主体的に学ぶ力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 少人数学習や TT の授業を実施して、丁寧でわかりやすい授業を行い自信とやる気を育てる。</li> <li>【活動指標】授業評価アンケートの実施</li> <li>【成果指標】各授業において、生徒の理解度85%以上</li> <li>○ 不注意による遅刻を減らし授業出席率の向上を図る。</li> <li>【成果指標】各授業において、年間出席率 85%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の授業理解度は 85% で目標を達成。学年が上がるとう理解度の低下が見られる。出席率は平均約 80%。各学年に登校できない生徒が数名いる。不注意による業間遅刻が年間 113 回で、昨年と比べると 3 分の 1 に減った。</li> </ul>	
豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自他の人権の尊重、命の大切さを実感する学習に積極的に取り組む。</li> <li>人権学習アンケートを事前実施し、人権学習の充実を図る。生徒の状況に応じて、学年別の取組みやグループ別討議を取り入れる。</li> <li>○ ネットモラル向上への取組</li> <li>【活動指標】人権アンケートの実施(年度初め、卒業時)、人権学習での生徒による発信</li> <li>○ 生徒会行事、同好会活動等に主体的・積極的に参加させる。</li> <li>【活動指標】生徒会行事の実施回数、企画会議回数。</li> <li>同好会活動、花いっぱい運動や校地畑での作物栽培活動の実績。</li> <li>【成果指標】学校生活アンケートの満足度 60%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 5月にオンライン人権意識アンケートを実施。新型コロナウイルスの影響を受け、年間取組内容に活かしきれなかった。11月、外部講師による人権講演会を実施。今年度も、生徒会との協働、全教員からの人権メッセージなど、人権を考えることを日常的な活動に近づけることができた。</li> </ul>	
安全安心な学校環境作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒一人ひとりの思いを受け止め、生徒間の仲間意識を強くするいじめのない学校作り。</li> <li>【活動指標】挨拶運動の取り組み</li> <li>携帯マナー教室、薬物乱用防止教室、交通安全教室など各種講座の実施</li> <li>いじめ防止に向けての取組</li> <li>生徒と教員間の良好なコミュニケーションの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍での自他の命の尊さや人権を尊重する意識を育むため、保健だよりや講話、連絡モニター等で啓発を行った。防災訓練、AED 講習会が新型コロナウイルスの影響で実施できなかった。学校行事が中止縮小</li> </ul>	

<p>キャリア教育の充実と進路保証</p>	<p>【成果指標】各学期のいじめアンケートの実施 (年3回以上) 個人面談の実施(オンライン面談を含む) ○感染症の感染防止に努める学校作り。 【活動指標】登校後の健康観察の実施。手洗い、手指消毒の指導。器具等の消毒。感染の少ない教室、給食室等の環境作り。 オンラインでの健康観察の実施 ○教育相談の充実 【活動指標】スクールカウンセラーの活用推進 教育相談講演会の実施  ○職場定着サポーターや福祉関係機関などの外部機関との連携を強め、生徒の就業に対する意欲向上を図る。 ○アルバイトも含め就労支援を強化するため、関係機関との連携体制を確立する。 【活動指標】進路ガイダンスの実施、連携機関との協議の充実</p>	<p>される中、感染対策に留意しながら、歓送迎会、文化祭、レクリエーション大会などを実施した。生徒会行事でありながら、企画段階から生徒主体の行事とならなかった。 ○新型コロナ感染症対策を兼ねた登校指導を通して生徒の体調の把握、日常の様子、人間関係などを知ることができ、教員と生徒が気やすくコミュニケーションを図れた。休校中、オンラインでの健康観察は100%の回答にならなかった。 ○ハローワークや職場定着サポーターなどとの連携をはかり、就職を希望する生徒の進路を実現できた。新型コロナ感染症の影響により、1学期に計画していた卒業生による講演が実施できなかった。3学期に外部講師による進路ガイダンスを実施した。</p>
-----------------------	---	--

改善課題

○今年度は、新型コロナ感染症の影響により例年の授業や行事などの学校活動ができない場面が多かった。同時に学校活動のオンライン化が急速に進み、本校もオンライン授業や生徒への連絡等を積極的に行ったが、苦手意識の強い生徒も多い。また、各分掌・係で工夫を凝らして行事等を実施したが、今後も一層の工夫が必要である。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など  
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>信頼される学校作り</p>	<p>○臨時休業中の学力補充 【活動指標】オンラインを活用した学習サポート 【成果指標】オンライン授業の生徒受講者数100% ○生徒一人ひとりの自己実現を支援するための共通理解。 【活動指標】生徒面談を学期に2回以上実施(オンラインを含む) ○家庭、地域、職場との連携をより一層深めるための情報発信に取り組む。 【活動指標】定時制ホームページ、ブログの随時更新、関係機関等、地元中学校、教育支援センターとの情報共有 発達障がい支援員、SSW等の積極的な活用</p>	<p>○オンラインの受講者数は93%。 ○HPは年一回の更新。ブログは随時更新できた。 地元中学校への訪問は2回だった。高校生活入門講座への参加も一定数ある。保護アンケートの結果から保護者に学校の様子は概ね伝わっている。</p>	

<p>風通しの良い 明るい職場作り</p>	<p>【成果指標】学校の様子がわかると回答する保護者の割合 60% ○高校生入門講座で1年生の学校紹介を実施。 【活動指標】情報の授業を活かしたPPの作成と生徒主体の運営 ○校外環境の保全と通学路等の安全確認 【活動指標】年1回以上の校外クリーン活動を実施。 ○学校環境の安全確認 【活動指標】教職員による安全点検を学期に1回実施。 ○教職員間の報連相の徹底。生徒情報などの共通認識の丁寧な確認。学校環境の改善に関する活発なディスカッション。オンライン会議などICT機器の活用 ○総勤務時間の縮減への取組の継続。 【成果指標】時間外労働時間について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1人当たりの月平均時間外労働を30時間以下</li> <li>● 年360時間を超える時間外労働者0人。</li> <li>● 月45時間を超える時間外労働者の延べ人数0人。</li> <li>● 1人当たりの年間休暇取得日数15日以上。</li> </ul>	<p>○高校生入門講座で1年有志による、学校紹介DVDを作成し、入学希望者に見せた。 ○学校安全点検は年間3回実施。感染症対策で、生徒の触れる箇所の消毒も日々実施した。 ○時間外労働時間は目標を達成した。</p>	
<p>改善課題</p>			
<p>○オンライン授業への取組が苦手な生徒も多いが、少人数のメリットを活かした生徒の学力補充、進路実現を支援していきたい。 ○少人数職場ではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休校が続き、人間関係を作り出すのが難しかった。</p>			

## 5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>○自立できる人づくりと(高校教育の)セーフティーネットという思いで見守ってもらっている。 ○中学校時での多様な進路選択の中の一つで、最近は通信制高校を選択する子も多い。定時制教育でも子ども一人ひとりに合った就職指導を期待されている。</p>
----------------------------	---

## 6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○今後は、with コロナの社会情勢を見極めながら、学校行事の精選をしつつ、授業形態の多様化や外部講師の招へいや三密を避けた形態でのグループ活動、オンラインを活用した取り組みなど様々な工夫を重ねていく必要がある。三密を避けるにあたっては、定時制の少人数スケールメリットを活かした企画を考案したい。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○with コロナ時代に即した保護者や地域との連携を深める新たな取組を考えていきたい。 ○職場の時間外労働は現在の状況を維持することを努める。 ○オンライン会議等は実効性が薄いので、少人数の利点を活かしたコミュニケーションの方法を考えていきたい。</p>